

新医学系指针对応「情報公開文書」フォーム

単施設研究用

当センターで経験した小児マムシ咬傷症例に関する調査

1. 研究の対象

2018年9～2025年5月の期間に当センターの救急外来でマムシ咬傷の診断を受けた症例が本研究の対象です。

2. 研究目的・方法・研究期間

ニホンマムシは日本全土に生息しており、マムシ咬傷の発生件数は年間1,000～3,000件と言われており、うち10例程度が死亡するとされています。マムシ咬傷に対する全身治療としては、乾燥まむしウマ抗毒素(以下抗毒素血清)があり、マムシ毒に対する唯一の中和薬として使用されます。小児マムシ咬傷では、初診時での重症度の予測は困難であることが多いとされており、入院管理のもと、適切な評価の上で抗毒素血清を投与することが重症化防止や早期回復に有用である可能性が示唆されています。一方で、小児に限定したマムシ咬傷の全国調査は実施されておらず、その詳細は不明な点が多いのが現状です。複数例の症例報告はなされていますが、小児マムシ咬傷については、今後さらなる症例の蓄積が必要であり、他施設からの搬送症例も受け入れている当センターでの経験症例の臨床経過や治療内容を把握することは、今後の小児マムシ咬傷の適切な対応の一助になる可能性があります。

この研究の目的は、当センターでマムシ咬傷と診断された患者さんの臨床経過および治療内容を電子診療録の情報から調査し、搬送症例を含めた小児マムシ咬傷の急性期管理および他施設との連携を検討することです。2026年8月31日までを研究期間とします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- カルテ番号、性別、生年月日、既往歴、身体所見、受診時刻、治療開始時刻、他院からの紹介の有無等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

あいち小児保健医療総合センター

総合診療科 小栗萌花

〒474-8710 愛知県大府市森岡町七丁目 426 番地
電話 0562-43-0500 (代表) FAX 0562-43-0513

研究責任者：

あいち小児保健医療総合センター

総合診療科 小栗萌花

〒474-8710 愛知県大府市森岡町七丁目 426 番地
電話 0562-43-0500 (代表) FAX 0562-43-0513

-----以上